

和倉めぐり

和倉の夜景

七尾の冬は、日が短い上に、日中も厚い雪雲に覆われることが多い。しかし、一年で最も空気が澄んでいる季節である。

晴れた日の夜、暗い七尾西湾を眺めると、ひときわ目立つ姿がある。窓の明かりが、冬の日本海のイメージとはかけ離れた、穏やかな海面に写る独特の風景。今年、開湯1200年を迎えた和倉温泉である。

ちょうど温泉街の対岸にあたる半浦港からは、旅館やホテルの明かりが海岸に並ぶ海の温泉郷の姿を一望することができる。その姿は、寒い季節には、暖かな温泉のイメージと重なり、さらに魅力的に見える。

その明かりに誘われるように、温泉街へと向かった。

和倉温泉街は、宿の明かりと飲食店から漏れる光などで、とても明るい。

その中心部にある総湯には、玉石を敷き詰めた足湯があり、無料で温泉を体験することができる。足湯からは、柔らかな湯気が立ち上っていた。足湯の近くには、温泉を飲むことができる湯のみ場がある。

り、温泉を飲んだり、温泉卵を作ったりすることができ。この湯のみ場には、七福神の一神、寿老人の像がある。

和倉散策

この七福神の像は、和倉の7つの名所を楽しみながら散策できるように設置されたものである。また、このうち6ヶ所には、ライトアップもされ、夜の町並み散策を楽しむことができるようになってい

る。総湯から少し歩くと、恵比寿像があり、ライトアップポイントのひとつでもある湯元の広場に着く。広場には暖かな湯気が立ち上っていた。



湯元の広場

ここにある、湧浦の湯壺には、温泉発見にまつわる故事をモチーフにした2羽の白鷺

ガス灯のような形をした街灯のある橋のたもとに、大黒天の像がある。この橋の近く



渡月橋



和倉の夜景（半浦港から）

には和倉温泉で最も古い旅館の建物もあり、観光客が行き来する姿があった。

また、中心部から少し離れた、少比古那神社や青林寺、信行寺は、落ち着いた雰囲気の中、ライトアップされた姿が幻想的に浮かび上がり、それぞれ毘沙門天、布袋、福祿寿の像がある。

最後のひとつ弁才天は、温泉街の中央部、弁天崎公園のライトアップされた弁天社にある。

この公園から海岸へと進むと、わくわくプラザという広場がある。この広場には、海を臨むように設置されたベンチがあり、のんびりと冬の海と能登島を眺めることができる。

海の見える公園

現在、和倉には新たに海を眺めることのできる公園を建設中である。

この公園には、足湯施設が整備される予定になっている。完成すれば、足湯につかりながら波穏やかな七尾湾越しに能登島を眺望できる新たな七尾の名所になるに違いない。

また、この公園には、すでに和倉温泉開湯1200年に

ちなんで、120本の桜の記念植樹が行なわれた。この桜の花が咲く数年後には、多くの市民や観光客で賑わう姿が

見られることであろう。和倉温泉は、新たな魅力を生み出し、進化を続けている。

